

道の駅琴の浦(物産館ことうら)のリニューアルについて

【R2補正 208,469千円】 商工観光課

山陰道の全線開通が目前となった今、開設10年を機に、町観光の1丁目1番地である道の駅琴の浦を全面リニューアルすることにより、地元製品の販売や地域観光への誘客を図り、町の発展へとつなげる。

●現状と課題

【拠点機能】

地域の魅力を伝え、町内観光地への誘導することができていない。(AI Beaconシステム → 道の駅からの周遊率は6.5%)

【全体感】

テナントは各自のビジネスに注力、顧客目線での商品陳列や統一のイベントといった全体感のある取組みができていない。

【収容人数】

情報コーナー(飲食スペース)が狭く、座席数が少ない。昼食時にお客様の取りこぼしをおこしている。

●解決の方向性

- 道の駅を単なるテナントの集まりではなく、地域を活性化させるミッション(使命)を担った一つの公益性の高い施設として再定義することが必要。
- そのミッションとは、道の駅の魅力度を高めることで、地域への誘客を促進し、地域製品の販売や地域観光への回遊など、地域の拠点として機能することである。
- この使命を達成するためには、道の駅全体の管理・運営について全体に横串を通す存在が必要

施設のリニューアル工事 計 229,471千円
(財源: 拠点整備交付金 1/2、一般補助施設整備等事業債)

- 施設全体をオープンフロアに整備
施設内の壁を撤去、厨房、鮮魚・惣菜作業室、事務室等に移設し、来客者の導線等を確保するほか、館内全面をオープンフロアへと変更し、開放的で透明な空間を創出する。
- フードコートスペースを整備(拡張)
飲食スペースを拡張し、現状の約1.5倍となる約100席のオープン型フードコートとして再整備する。
- テラス席の設置
施設の後面に、雄大な日本海が眺望できる絶好のロケーションを活用し、ガラス張りのテラス席を設ける。

指定管理者制度の導入(現テナントから選定)

- 収益施設である物産館ことうらは、民間に任せることによりノウハウを生かした効率的な施設運営と顧客サービスの向上を図る。併せて町の事務的作業や維持管理経費の削減も図る。
- 町内6事業者で組織する「(株)ことうら」を指定管理者に選定、漁協は指定管理者との契約によるテナントとして入店することにより、相互連携のもと、一体的な管理・運営を図る。
<業務の範囲>
 - ・物産館ことうらの管理、運営(軽微な修繕を含む)
 - ・物産館ことうらの情報や地域情報の発信(HPの整備)
 - ・定期的なイベントの開催

令和3年3月
・工事、設計予算計上
・条例改正

4月～7月
・実施設計
・指定管理候補者選定(議決)

9月～3月
・改修工事

令和4年春
・グランドオープン

